

第 35 回電気通信普及財団賞 表彰者コメント ～テレコム社会科学学生賞～

< 順不同 >

※当論文賞受賞時の所属を記載しております。

橋本 純次 氏 (社会情報大学院大学 広報・情報研究科 助教)

テレコム社会科学学生賞 佳作

「人口減少社会と視聴者の流動性を背景とした民放構造規制の展望」



この度は、拙稿を「第 35 回 電気通信普及財団賞テレコム社会科学学生賞 佳作」にご選定いただき、誠にありがとうございます。東北大学 大学院情報科学研究科の堀田龍也教授をはじめ、本研究にご指導・ご助力を賜ったすべてのみなさまに、この場をお借りして深謝申し上げます。

本研究全体に通底する問題意識は、放送政策が重要なステークホルダーたる「放送局で働く従業員」や、「放送を楽しむオーディエンス」のことを考慮できていないのではないか、というものです。人口減少社会・情報社会にあつては、あらゆる場面で社会の実情に対応しうる政策が求められるのではないかと。放送政策もまた、地方局の実情や、視聴者の置かれる状況を踏まえて進化する必要があるのではないかと。そのようなことを考えてきました。

客観性を本旨とする公共政策のあり方について、限られたアンケートやインタビューの結果を基礎として提言することの無謀さは重々承知しておりますが、今回このような栄誉ある賞をいただき、一定の評価を頂戴できたことで、研究の方向性に自信を持つことができました。

今後は、研究者として、大学教員として、豊かな放送文化・メディア文化の発展と、地方局の持続可能性に資するための研究・教育・社会貢献活動を続けてまいりたいと考えております。このたびは誠にありがとうございました。

末筆ながら、貴財団のさらなるご発展とご繁栄をお祈り申し上げます。

片山 千枝 氏 (金沢大学 大学院人間社会環境研究科 博士後期課程 3 年)

テレコム社会科学学生賞 佳作

「青年期女子のインターネットを介した出会いの様相－刹那的人間関係に注目して－」

この度は、「第 35 回電気通信普及財団賞テレコム社会科学学生賞 佳作」を頂き、有難うございます。このような名誉ある賞を受賞し、大変光栄に思います。

青少年がスマートフォンをはじめとしたインターネット端末からネットを利用することは今や当たり前のことになりました。青少年は SNS やインスタントメッセージなどのサイト・サービスを利用することでより充実した人間関係を築くことができるようになった一方、トラブルや事件・犯罪に巻き込まれてしまう機会も増えました。今回はネットを介して新しく知り合った人との関係が短期間で終了または消滅してしまう「刹那的人間関係」について注目し、論文をまとめました。もともと一時的な関係を求めているのであれば、相手との関係が短期間で終了または消滅したとしても、精神的なダメージは少ないと思います。しかし、相手と濃密で継続的な関係を望んでいた場合、関係が短期間で終了・消滅してしまうと、精神的なダメージは大きいと思います。それがきっかけで相手とトラブルになったり、事件・犯罪に発展したりすることも十分に考えられます。本研究では青少年の中でも特に青年期女子に注目し、その一端を明らかにすることができましたが、これをきっかけとして更なる調査・研究が必要だと感じました。今後は社会実装も視野に入れ、自分の研究が社会にどのような貢献ができるかといった視点からも研究を深めたいです。